カトリック六甲教会報

クリスマス特別号

2008.12.25

Merry Christmas

救い主イエス・キリストのご降誕 おめでとうございます。

今年のクリスマスは，児童文学の名著と言われる「おおきな木」（45年程前アメリカで出版。原題は The Giving Tree）という童話をご紹介したいと思います。

『昔，おおきなリンゴの木があった。可愛いちびっ子が毎日やって来て木に登り，枝にぶら下がり，木の葉を集めた冠をかぶり，王様気取り。疲れると，木の根元で昼寝の時間。木もちびっ子も，大の仲良しになった。‥‥しかし，ちびっ子は大人になり，木はたいてい一人ぼっち。その子は彼女と来るようになり，木の根元には二人の名がハートの図柄に彫られる。

木はやり切れない淋しさを味わうのだが，或る日その子がひょっこり現れ，木は大喜び。「さあ坊や，木にお登り。リンゴをお食べ」と言うと，「僕は買い物がしたいので，お金が欲しいんだ」とせがむ。木は困った挙げ句に，「リンゴの実を全部もぎ取って，町で売ったらどうだろう」‥‥木はそれで嬉しかった。その後長い間，その子が来なくなったので木は悲しかった。 或る日その子が現れると，木は前と同じように嬉しさ一杯に体をふるわせて迎えます。しかし，「僕は忙しい。結婚するので家が欲しい。家をくれるかい？」「私の枝を全部切り取れば，家を建てることが出来るよ」

‥‥木はそれで嬉しかった。

長い年月が過ぎ，初老になったその男が戻って来た。木は嬉しくて，ものも言えない程だった。「さあ坊や，ここでお遊び」「歳は取るし，哀しいことばかりで，遊ぶ気にはなれないよ。舟に乗って，どこか遠くへ行きたいな」「私の幹を切り落とし，舟をお造り。そして，楽しくやっておくれ」‥‥木はそれで嬉しかった。その子が幸せになれるのなら，それで嬉しかった。それからまた長い年月が流れ去り，ヨボヨボのおじいさんになって，その男が現れた。すると，木はいつものように大喜び。しかし，哀しそうに言う。「すまないねえ。何かあげられたら良いのだが。私にあるのは，ただの古ぼけた切り株だけ」「わしは今，欲しい物はない。もう疲れたので，座って休む静かな場所がありさえすれば‥‥」「あゝそれなら，この切り株が腰掛けて休むのに一番良い。さあ坊や，腰掛けてお休み」‥‥‥木はそれで嬉しかった』（一緒にいるだけで嬉しかった）。

年の瀬には，全世界がクリスマスを喜び迎えます。神の御子イエス・キリストが幼子として馬小屋にお生まれになったことをお祝いします。神様ご自身が人間の歴史に入って来られ，共に歩んで下さいました。現代人にはお伽話のようですが，神の御子キリストは人間にとって「おおきな木」のようです。聖書では“インマヌエル（神我らと共に）”という名前で呼ばれ，いつも一緒にいて下さる方，人間の幸せのために全てを与え尽くしながら，“それで嬉しかった”と言って下さる方です。

カトリック六甲教会主任司祭　桜井彦孝神父

「今日，あなたがたのために救い主がお生まれになった」

主イエス・キリストの誕生

「クリスマス」はキリスト教徒にとって，主イエス・キリストがお生まれになった喜ばしい日であるということは，よく知られています。それでは，どのような状況でイエス様はお生まれになったのでしょう？

聖書のルカ福音書では，救い主の誕生の様子がおおむね次のように伝えられています。

ローマ帝国が地中海一帯を支配していた頃，初代皇帝アウグストゥスから全領土の民に，住民登録の勅令が出されました。人々は皆，住民登録のためにそれぞれ自分の故郷へ旅立ちました。ヨセフも身ごもっていた妻マリアと一緒に，ガリラヤの町ナザレから，ユダヤの町ベツレヘムへと上って行きました。

ところが，まだ彼らがベツレヘムに滞在するうちに，マリアは月が満ち，初めての子どもを産みました。住民登録の人々であふれかえるベツレヘムの宿屋には，彼らの泊まる場所がなかったので，幼子を布にくるみ，飼い葉桶に寝かせました。

その頃，羊飼いたちが野宿をしながら，夜通し羊の群れの番をしていました。すると，主の天使が近づき，彼らに言いました。

「恐れるな。わたしは，民全体に与えられる大きな喜びを告げる。
今日，ダビデの町（＝ベツレヘム）で，あなたがたのために救い主がお生まれになった。あなたがたは，布にくるまって飼い葉桶の中に寝ている乳飲み子を見つけるであろう。」

当時，イスラエルはローマ帝国に支配されており，人々は救い主の到来を待ち望んでいました。約2000年前の夜，神様は人となられた時，布一枚にくるまれ，汚れた飼い葉桶に寝かされた乳飲み子の姿を選ばれました。　また，救い主誕生の喜ばしい知らせは，もっとも貧しい羊飼い達に一番先に知らされたのです。

ミサとは何でしょう？

十字架上で亡くなる前の晩，イエスは愛する弟子たちと最後の晩餐をとり，次のように言われました。

「皆，これを取って食べなさい。これはあなたがたのために渡される私の体である。
皆，これを受けて飲みなさい。これは私の血の杯，あなたがたと多くの人のために流されて罪のゆるしとなる新しい永遠の契約の血である。
これを私の記念として行いなさい。」

以来，教会はそのことばを守り，最後の晩餐の式を繰り返してきました。これがミサの由来です。信者は聖書朗読を通して神の言葉を聴き，キリストの体であるパンを拝領することによって，主の食卓に与ります。ミサはこのように，キリストの死と復活を記念するものであり，また神に感謝と賛美をささげる感謝の祭儀でもあります。　ミサは，日曜日，平日，また結婚式や葬儀など人生の大切な場面でも行われますが，今日のクリスマスミサは信者にとって主イエス・キリストの誕生を祝う大切なミサと言えます。
英語の「クリスマス Christmas」は，本来「キリストのミサ Christ mass」を意味しています。

マザー・ハウスのクリスマス

カトリック六甲教会助任司祭　片柳弘史神父

もう10年以上も前のことになりますが，わたしは2回の待降節をカルカッタのマザー・テレサの家で過ごしました。マザー・テレサが住んでいた家は，世界中にある「神の愛の宣教者会」の修道院にとってお母さんにあたる家なので，マザー・ハウスと呼ばれています。

待降節の始まりの日，マザー・ハウスの聖堂には空の飼い葉桶が置かれます。飼い葉桶の隣にはわらの束も積み上げられます。なんのためでしょうか。不思議に思っているわたしたちボランティアを集めて，マザー・テレサは次のように話しました。

「この待降節のあいだ，神様のために何かを犠牲にするたびごとにこの飼い葉桶に一本ずつわらを入れてください。犠牲を捧げることで，わたしたちの心の中にはイエス様を迎えるための場所ができます。 もし心の中にいろいろなものへの執着心や怒り，憎しみなどが一杯詰まっていれば，イエス様はわたしたちの心の中に入ってくることができません。 ですが，もし執着心や自分本位の感情を犠牲として神様のために手放すならば，わたしたちの心にはイエス様を迎えるための場所ができるのです。たくさんの犠牲を捧げて，あなたたちの心にイエス様を迎えるための場所が準備される頃には，この飼い葉桶もわらで一杯になっているでしょう。」

この話を聞きながら，わたしはいいことを思いつきました。ボランティアとして働いている「死を待つ人の家」まで，いつもはバスで行っているけれど今日は歩いてみたらどうだろう。バスで行った方が楽に決まっているけれど，楽なことを求める自分の気持ちを1日だけでも犠牲として神様に捧げてみよう，と思ったのです。

歩き始めたばかりのときは，なかなかいい気分でした。途中で何回も渋滞に巻き込まれて止まってしまうバスに比べれば，歩いてどんどん進んでいくのは気持ちがよかったからです。ですが，歩いても歩いてもなかなか目的地は近づいてきません。乾期である12月のカルカッタの空気は，排気ガスや土煙で汚れています。20分くらい歩いたところで，のどがひりひりと痛み始めました。30分たつとサンダルと足の指が擦れて痛み始めました。40分くらいたったところで，わたしは自分の思いつきを後悔し始めました。1時間ほど経ってようやく「死を待つ人の家」に着きましたが，そのときには顔は煤や土で真っ黒に汚れ，サンダルに擦れた足の指の間には血が滲んでいました。

仕事が終わってマザー・ハウスに帰ったわたしが，真っ先に聖堂の飼い葉桶の前に行ったことはいうまでもありません。 飼い葉桶にわらを入れながらわたしは，「バスに乗れない貧しい人たちが，どんな思いで道を歩いているのか教えてくださってありがとうございます。彼らの長い道のりの傍らに，いつでもあなたがいてくださいますように」と心から祈りました。今となっては，とてもいい思い出です。

目を閉じると，あの日のマザー・テレサの声が今でも耳に響いてきます。クリスマスまでに，散らかり放題に散らかって足の踏み場もないようなわたしの心の中を少しは片づけなければなりません。

長い道のりを貧しい人々ともに歩き続け，曲がってしまったマザー・テレサの足の指。　［写真／片柳神父撮影］

どなたでもお気軽にご参加ください。

カトリック六甲教会の活動について

〈 ミ　サ 〉　感謝の祭儀。キリストを中心に司祭（神父）とともに皆で心を合わせて神への祈りを捧げます。約一時間。

◆ 主　日［日曜日］　午前 7：00／9：00／11：00
（土曜日 午後 7：00）

◇ 平　日［月～土］　午前 7：00

◆ 毎月第一金曜日　午前 7：00／10：00

◆ 特 別 の ミ サ　クリスマス（12月24日・25日），新年（1月1日），復活祭には，特別なミサを行います。

ミサの他に日々さまざまな行事や集いを行っています。キリスト教徒でない方も，どなたでもご参加いただけます。
興味のある方は，教会受け付けにお問い合わせいただくか，ホームページをご覧ください。
みなさまのご参加をお待ちしております。

〈 勉　強　会 〉　キリスト教の教えや聖書について等，さまざまなテーマで毎日開かれています。

〈教　会　学　校〉　毎週土曜日，子供たちが集まり，一緒にキリスト教の勉強をしたり，遊んだりしています。

〈ボランティア活動〉　それぞれ，特技を活かすなどして，盛んに活動しています。

〈趣 味 の 集 い〉　混声合唱，絵画，囲碁将棋，俳句，男の料理教室，手芸など。

このほか講演会，コンサートなど随時開催しています。　夏は「納涼の夕べ」，秋は「チャリティーバザー」や，新年会，成人式，七五三，「祈りの道場」など日本文化に順応した行事もあります。　教会の掲示板，ホームページなどでご案内しています。
また，図書室ではキリスト教の専門書から一般書，クラシックを中心とした音楽教材などを豊富に取り揃えています。毎日 10：00～16：00，どなたでもご利用ください。

今日この喜ばしい日にわたしたちが集えたことを神に感謝しつつ，
皆さま良いお年をお迎えください。

カトリック六甲教会

住　　所　〒657-0061 神戸市灘区赤松町 3-1-21
電　　話　（078）851-2846
ホームページ　http://www.rokko-catholic.jp
発行責任者　桜井 彦孝 神父
編　　集　広 報 部